

斜里町の絶滅危惧植物チェックリスト

内田暁友

099-4113 斜里郡斜里町本町49番地, 斜里町立知床博物館

Checklist of Threatened Plants of Shari, Hokkaido

UCHIDA Akitomo

Shiretoko Museum, 49Honmachi, Shari, Hokkaido, 099-4113, Japan. utida@ohotoku26.or.jp

Threatend plants of Shari, based on RDB of Environmet Agency of Japan (2000) were listed. In the list, 67 threatend plants were recorded (6 Critically Endangered, 21 Endangered, 40 Vulnerable), and 6 species are new to Shari.

はじめに

斜里町は北海道東部のオホーツク海側に位置し、知床半島の岬部から斜里岳北麓、斜里平野東部にいたる地域である。73,697haの面積のなかに海岸から高山まで多様な環境を有し、特に半島部は豊かな自然が残っている。それらのうち、貴重なものは知床国立公園、網走国定公園、斜里岳道立自然公園、遠音別岳原生自然環境保全地域、以久科海岸道自然環境保全地域およびウトロ崎学術自然保護地区として指定されており、それぞれ開発と利用に関して一定の制約がある。

これまで町内で行われた植物相調査は半島部を中心としておこなわれてきた。1985年には羅臼町をふくむ知床半島から817種59変種18品種が記録され(佐藤ら 1985),その全容がほぼ明らかになった。しかし平野部については千田(1977, 1978)と北海道斜里高校生物部(1994)によるガッタンコ湿原の調査があるのみで、未だ全容の解明にはいたっていないのが現状である。平野部の多くは農地として利用されており現在も開発の強い影響下にある。斜里町の環境保全を考える上では平野部植物相の現状把握が急がれる課題である。

筆者は2000年から平野部をふくむ斜里町の植物相調査を開始した。まだ植物相の全容を明らかにするには至っていないが、これまで多数の絶滅危惧植物を確認し、そのうち6種はこれまで斜里町では記録のない種であった。町の環境保全を考える上でこれらのリストの作製は重要かつ急がれる

内容であるため、不完全ではあるがこれまでの調査結果をまとめて報告する。本報告では2002年までの調査結果に佐藤ら(1985)などに文献の記録を加え、斜里町全体の絶滅危惧植物リストを環境庁(2002)にしたがって作成した。また、筆者が現地で確認したものについては観察記録をあわせて報告する。

なお、ここでは斜里町の半島部と平野部の境界を便宜的に奥薬別川とした。山域では知床岬から海別岳までを半島部、斜里岳を平野部とする。

観察記録

メアカンキンバイ

半島部の硫黄山、羅臼岳で1979年に確認されている(佐藤ら 1985)。筆者も羅臼岳で2001年に開花個体がクッション状に密集している小群落を数カ所確認した(写真1)。

レブンサイコ

平野部の斜里岳で川代(1963)が報告している。筆者も2001年に斜里岳の山頂近くの稜線上で蕾をつけた個体を少数確認した(写真2)。

フタマタタンポポ

平野部の斜里岳で川代(1963)、丹羽・渡辺(1997)が報告している。また、筆者も2000年に斜里岳の山頂近くの稜線上で開花個体を数株体確認した(写真3)。

エゾノタカネヤナギ

半島部の遠音別岳で1984年に確認されている(佐藤ら 1985)。筆者は2002年に平野部の斜里岳の山頂付近にて、それぞれ雄個体および雌個体からなる開花個体の小群落を数カ所確認した(カラー口絵)。

ベニバナヤマシャクヤク

平野部の海岸林で2002年に開花個体および結実個体を2カ所で数株ずつ確認した(写真4)。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。

エゾシモツケ

半島部の羅臼岳で1971・1979年に、遠音別川流域で1980年に確認されている(佐藤ら 1985)。筆者も2002年に羅臼岳の岩地に小班状に生育する本種を確認した。また、千田(1978)は平野部から2カ所報告しているが、分布地の状況に加え本文中に「桃色の花」とあることからこれらはホザキシモツケ(VU)を誤認した可能性が高い。

カラフトイチヤクソウ

半島部の硫黄山にて1979年に、二つ池および海別岳で1980年に、遠音別岳および知西別岳にて1984年に確認されている(佐藤ら 1985)。また筆者は2000年に平野部の斜里岳で数株の開花個体を確認した(写真5)。

ホソバツルリンドウ

半島部のイダシュベツ川流域で2001年に開花個体を1株確認した。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。

バシクルモン

半島部のウトロで1980年に確認されている(佐藤ら 1985)。筆者も2000年にウトロの海岸付近で開花個体を確認した。また、丹羽・内田(2002)がこの群落について2001年に固定調査区を設け、周囲の植生および個体群構造を明らかにし、数百個体からなる群落を確認した。

ムシャリンドウ

半島部のルシヤ、テッパンベツの海岸草原で報告されている(館脇 1954)。また平野部の以久科

の海岸でも千田(1977, 1978)が報告している。筆者も2000年に平野部の海岸草原で開花個体を数十株確認した。

標本：A.Uchida 2066

シコタンタンポポ

知床岬の海岸草原で報告されている(館脇 1954)。筆者は2000年から2002年にわたって平野部の海岸草原に点在する本種を確認した。斜里町では海岸の線路沿いに多くみられるため、普通種のセイヨウタンポポと誤認されてきた可能性がある。

イトヒキスゲ

半島部のウトロ・幌別・イワウベツ、テッパンベツの林地で報告されている(館脇 1954)。また、筆者は2001年に平野部の幾品川流域で本種の結実個体を数株確認した。

標本：A.Uchida 2357

サルメンエビネ

半島部の遠音別岳、ウトロ、イワウベツの林地で報告されている(館脇 1954)。筆者も2001, 2002年に半島部のオシンコシンと幌別で数株ずつ開花個体を確認した(写真6)。

ヤチラン

平野部のガッタンコ湿原で1978年に確認されている(環境庁 1980)。しかしその後報告がなく、筆者も2000年から2002年にわたって調査しているが一度も確認していない。絶滅した可能性もあるが、更に数年は継続して調査する必要がある。なお、本種は2002年に北海道の特定希少野生動物植物に指定された。

ヒロハトンボソウ

2002年に平野部の朱円で羽田野是氏が開花個体を数株発見し、筆者もこれを確認した(写真7)。なお、千田(1978)が平野部の海岸林と富士の林地で本種を報告しているが、知床博物館が収蔵する千田の標本3点(1976年7月7日平野部の以久科にて採集、知床博物館標本番号10517~10519)を検討した結果いずれも本種ではなかった。

エゾノヒモカズラ

半島部のウトロ、カシュニ、羅臼岳で報告されている(館脇 1954)、また羅臼岳で1971、1979年にも確認されている(佐藤ら 1985)。筆者は2000年に知床岬で、2001年にオシンコシンおよび白川流域で、いずれも半島部で密な群落を確認した(写真8)。

シコタンハコベ

半島部のイワウベツ、イダシュベツ、カシュニ、知床岬で報告されている(館脇 1954)。また1980年に知床岬とテッパンベツで確認されている(佐藤ら 1985)。筆者も2002年に知床岬の岩地で多数の開花個体からなる群落を確認した。

チシマミクリ

半島部の山岳稜線上に点在する湖沼で1979年から1984年の間に確認されている(佐藤ら 1985)。また知床五湖からも荒澤(1984)の報告がある。筆者も2000年から2002年にわたって半島部の湖沼で葉幅が4 mm以下で浮葉性のミクリ属を多数確認している。しかしこれらは花を減多につけないようである。この属の同定には多数の花序の観察が不可欠なため(角野 1994)、これまでチシマミクリとして報告された浮葉性のミクリ属には、よく似たウキミクリ *Spargenium gramineum* Georgi (EN)、ホソバウキミクリ *S. angustifolium* Michaux (VU)、ホソバタマミクリ *S. glomeratum* (Beurl ex Laest.) Neuman var. *angustifolium* Graebn. (VU) が混ざっている可能性がある。今後は花序をつけた個体の観察を積み重ねていく必要がある。

キタミフクジュソウ

半島部のオシンコシンで2001年に、平野部の海岸林で2002年に、それぞれ開花した多数の個体からなる群落を数カ所ずつ確認した。また、半島部の知床岬で中川(1991)が、平野部の美咲で千田(1977)がそれぞれフクジュソウの分布を報告しているが、これらも写真や立地から判断するとキタミフクジュソウだと考えられる。なお、2002年に筆者は平野部の中斜里の林道で本種を満載した業者と思われる軽トラックとすれ違った。今後の群落の推移については十分な注意が必要である。

フタマタイチゲ

平野部の海岸林から千田(1977、1978)が報告している。また筆者も平野部の海岸林で2000年から2002年にわたって多数の開花個体からなる群落を数カ所確認した(写真9)。

標本：A.Uchida 2051

ネムロコウホネ

半島部の知床五湖に大きな群落があり、館脇(1954)にイワウベツと産地があるのもこの群落を指すと思われる。筆者も2002年に現地で開花した群落を確認した。また、筆者は半島部の糠真布川流域の池で2000年から2002年にわたって多数開花した群落を確認した。

標本：A.Uchida 2322

ホザキシモツケ

半島部のウトロで中川(1991)が、また平野部のガタンコ湿原で北海道斜里高校生物部(1994)が報告している。筆者も平野部の防風林や湿原で2000年から2002年にわたって多数の開花個体を確認した(写真10)。なお、エゾシモツケの項で述べたとおり、千田(1987)が報告した平野部のエゾシモツケは本種の誤認である可能性が高い。

標本：A.Uchida 2205

オオバタチツボスミレ

半島部の羅臼岳で1971・1979年、遠音別岳で1984年に確認されている(佐藤ら 1985)。また筆者は平野部の防風林内で2000年から2002年にわたって数十株の開花個体からなる群落を数カ所確認した(写真11)。

レブンコザクラ

半島部の知床岬で1980年に確認されている(佐藤ら 1985)。筆者も知床岬で2000年および2002年に多数の開花個体からなる群落を確認した(カラー口絵)。

ネムロブシダマ

半島部のオンネベツ、ウトロ、知床岬での報告がある(館脇 1954)。また、平野部でも千田(1977、1978)や北海道斜里高校生物部(1994)が海岸林から報告している。筆者も平野部の海岸林全域で

2000年から2002年にわたって多数の開花・結実個体を確認した（写真12）。

イワヨモギ

半島部のウトロ、イワウベツ、ルシヤの岩地で報告がある（館脇 1954）。筆者もウトロのオロンコ岩で2000年に数十個体を確認した。

エゾノヨモギギク

半島部のウトロ、幌別の草地で報告がある（館脇 1954）。筆者もウトロ周辺の岩地で2000年から2002年にわたって開花個体からなる大小の群落を数カ所確認した（写真13）。これらの群落のうちそれぞれ数十個体からなる2群落については丹羽ら（2000）が周囲の植生および個体群構造について明らかにした。

標本：A.Uchida 2110

ホソバノシバナ

半島部のイダシュベツ川流域の湿原の泥上で2000年に開花した数十個体からなる群落を確認した（写真14）。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。

標本：A.Uchida 2059

イトモ

平野部の知床博物館野外観察園にある人造の観察池で2000年に確認した。1992年の観察池造成以来この池にイトモを導入した記録はない。しかし観察池には様々な水草や水生動物が町内外から導入された経緯があるため観察池のイトモの由来は明らかではない。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。

標本：A.Uchida 2001

タマミクリ

半島部の糠真布川流域の池で2000年に結実した数個体を確認した。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。

標本：A.Uchida 2299

ネムロスゲ

半島部の知床五湖周辺で1971年と1980年に、また同じく半島部のテッパンベツ川とウブシノッタ

川の間海岸で1980年に確認されている（佐藤ら 1985）。また、筆者は平野部の海岸草原で2000年から2002年にかけて小群落を数カ所確認した（写真15）。

標本：A.Uchida 2245

エゾハリスゲ

平野部の大栄で2001年にハンノキ・ヤチダモからなる湿地林内に生育していたのを数株確認した。本種はこれまで斜里町には記録がなかった。なお、この湿原には隣接して最近になって作られたと思われる明渠があり、今後乾燥化が進むおそれがあるため群落の推移には注意が必要である。

標本：A.Uchida 2367

ヒメムヨウラン

半島部の幌別川流域の林内で2000年に開花個体を数個体確認した。なお、標本が滝田（2001）に引用されており、それが斜里町での最初の記録となる。

標本：A.Uchida 2304

トキシウ

北海道斜里高校生物部（1994）が平野部のガッタタンコ湿原で報告している。その後、同じガッタタンコ湿原で渡辺ら（2001）が周囲の植生および個体群構造について明らかにした。筆者も同所で2000年から2002年にわたって多数の開花個体からなる群落を確認した（写真16）。

標本：A.Uchida 2314

おわりに

作製したリストは環境庁のレッドデータブック掲載種と斜里町で記録されている種を突き合わせた簡便なものである。このリストの様に、日本列島全体の中でそれぞれの種の絶滅確率を考えて掲載種を選定するのにもたしかに重要である。しかし地域の実状にあわせて種の絶滅確率を評価しなおしていく事も今後は重要になっていくと考えられる。例えば、現在の半島部ではエゾシカによる食害のため平野部では普通種であるノリウツギなどが絶滅の危機に瀕している。種の多様性を保全するためには多様な地域性にあわせた多様なレッドデータブックが必要である。このリストは斜里町

版の絶滅危惧植物選定にあたって最初の足がかりとするために作製した。

さっぽろ自然調査館の皆様には調査に際して多々ご教示、ご協力いただいた。また羽田野是氏をはじめとする斜里町とその近隣にお住まいのたくさんの方々に貴重な情報をいただいた。ここに敬礼申し上げる。

なお、引用した標本は全て知床博物館標本庫に収められている。

引用文献

- 荒澤勝太郎. 1984. 知床の草木花. 207pp. 北海道タイムス社, 札幌.
- 北海道斜里高等学校生物部. 1994. ガッタンコ沼の植生調査. 知床博物館研究報告 15 : 83-92.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 179pp. 文一総合出版, 東京.
- 環境庁 (編). 1980. 日本の重要な植物群落 北海道版. 455pp. 大蔵省, 東京.
- 環境庁 (編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物 I (維管束植物). 660pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 川代善一. 1963. 斜里岳の高山植物. 北見林友 129 : 1-11.
- 中川元. 1991. 知床海岸の花100 郷土学習シリーズ13. 47pp. 斜里町立知床博物館協会, 斜里.
- 丹羽真一・内田暁友. 2002. 知床半島におけるバシクルモンの生育環境と個体群構造. 知床博物館研究報告23 : 15-20.
- 丹羽真一・渡辺修. 1997. 斜里岳の植物相と植生の垂直変化. 知床博物館研究報告 18 : 51-61.
- 丹羽真一・渡辺修・渡辺展之・内田暁友. 2003. 海岸断崖に生育する稀少植物, エゾノヨモギギクの個体群構造. 知床博物館研究報告 24 : 9-14.
- 佐藤謙・西川恒彦・酒井聡樹・松井淳・甲山隆司・小池文人・小林正寛・伊藤浩司. 1985. 遠音別岳原生自然環境保全地域と知床半島全域の維管束植物相. 環境庁 (編), 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書. pp115-172. 環境庁, 東京.
- 滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 1452pp. 自費出版, 釧路.
- 館脇操. 1954. 知床半島の植生. 81pp. 北見営林局.
- 館脇操 (編). 1966. 知床岬の植生 - 植物群落と土壌 -. 59pp. 日本森林植生研究会.
- 館脇操 (監). 1968. 川代善一遺稿集 北見の植物とともに. 266pp. 林野弘済会北見支部.
- 千田正雄. 1977. 斜里の植物 (I). しれとこ資料館報告 4 : 2-7.
- 千田正雄. 1978. 斜里の植物 (II). しれとこ資料館報告 5 : 21-28.
- 渡辺展之・丹羽真一・渡辺修. 2001. 知床ガッタンコ沼に生育するクロバナロウゲとトキソウの生育環境と個体群構造. 知床博物館研究報告 22 : 1-8.
- 吉村健次郎. 1977. 知床半島の高山植物, 特に数種の植物の分布について. 釧路市立郷土博物館館報243 : 3-6.

チェックリスト

本リストでは斜里町に分布が確認されている67種の絶滅危惧植物を列記した。チェックリストはランク別のもと分類群別のもと2つを作製した。ランク別のものには種の和名・学名の後にその種が報告された主な文献1つを付し、斜里町新産となる6種については和名の前にアスタリスク(*)を付した。分類群別ものは科ごとにまとめて配列し、科以下は和名の五十音順に並べた。なお、リストに使用されているランクは、各植物種について計算された絶滅確率をもとに以下の基準に従って分類されたものである(環境庁2000)。

・絶滅危惧IA類 (CR: Critically Endangered)

10年後、または3世代後のどちらか長い方の期間に絶滅する確率が50%以上のもの

・絶滅危惧IB類 (EN: Endangered)

20年後、または5世代後のどちらか長い方の期間に絶滅する確率が50%以上のもの

・絶滅危惧II類 (Vu: Vulnerable)

100年後の絶滅確率が10%以上

ランク別チェックリスト

絶滅危惧IA類(CR): 6種

- ハマタイセイ *Isatis yezoensis* Ohwi (佐藤ら 1985)
メアカンキンバイ *Pententilla miyabei* Makino (佐藤ら 1985)
エゾモメンズル *Astragalus japonicus* H.Boiss. (佐藤ら 1985)
レブンサイコ *Bupleurum ajanense* (Regel) Yamazaki (川代 1963)
フタマタタンポポ *Crepis hokkaidoensis* Bab. (丹羽・渡辺 1997)
ヒメウシオスゲ *Carex subspathacea* Wormskj. (館脇 1954)

絶滅危惧IB類(EN): 21種

- リシリビャクシン *Juniperus sibirica* Burgsd. (佐藤ら 1985)
エゾタカネヤナギ *Salix nakamuraana* Koidz. ssp. *yezoalpina* (Koidz.) H.Ohashi (佐藤ら 1985)

- *ベニバナヤマシヤクヤク *Paeonia obovata* Maxim.
トモシリソウ *Cochlearia oblongifolia* DC. (館脇 1954)
エゾシモツケ *Spiraea medica* Schmidt var. *sericea* (Turcz.) Regel ex Maxim. (佐藤ら 1985)
ヌマゼリ *Sium suave* Walt. var. *nipponicum* (Maxim.) Hara (館脇 1968)
カラフトイチヤクソウ *Pyrola fauriciana* H.Andr. (佐藤ら 1985)
*ホソバツルリンドウ *Pterygocalyx volubilis* Maxim.
バシクルモン *Apocynum venetum* L. (佐藤ら 1985)
ムシャリンドウ *Dracocephalum argunense* Fisch. ex Link (佐藤ら 1985)
エゾヒヨウタンボク *Lonicera alpigena* L. var. *glehnii* (F.Schmidt) Nakai (館脇 1954)
チシマキンレイカ *Patrinia sibirica* (L.) Juss. (佐藤ら 1985)
シコタンタンポポ *Taraxacum shikotanense* Kitam. (佐藤ら 1985)
セキシヨウイ *Juncus prominens* (Buchen. ex Matsumura) Miyabe et Kudo (佐藤ら 1985)
チシマミクリ *Sparganium hyperboreum* Beurl. ex Laest. (佐藤ら 1985)
オハグロスゲ *Carex bigelowii* Torr. ex Schweinitz (佐藤ら 1985)
イトヒキスゲ *Carex remotiuscula* Wahlenb. (館脇 1954)
キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino (館脇 1954)
サルメンエビネ *Calanthe tricarinata* Lindl. (館脇 1954)
ヤチラン *Malaxis paludosa* (L.) Sw. (環境庁 1980)
ヒロハトンボソウ *Tulotis fuscescens* (L.) Czerniask. (千田 1978)
- ### 絶滅危惧II類(VU): 41種
- エゾノヒモカズラ *Selaginella sibirica* (Milde) Hieron. (佐藤ら 1985)
ヒメハナワラビ *Botrychium lunaria* (L.) Sw. (館脇 1966)
タライカヤナギ *Salix taraiensis* Kimura (館脇 1954)
ノダイオウ *Rumex longifolius* DC. (佐藤ら 1985)

- シコタンハコベ *Stellaria ruscifolia* Willd. ex Schlechtendal (佐藤ら 1985)
- シレトコトリカブト *Aconitum maximum* Pall. ex DC. var. *misaoanum* (Tamura et Namba) Tamura (佐藤ら 1985)
- キタミフクジュソウ *Adonis amurensis* Regel et Radde (中川 1991)
- フタマタイチゲ *Anemone dichotoma* L. (千田 1977)
- チャボカラマツ *Thalictrum foetidum* L. var. *glabrescens* Takeda (佐藤ら 1985)
- ネムロコウホネ *Nuphar pumilum* (Timm) DC. (佐藤ら 1985)
- エゾオトギリ *Hypericum yezoense* Maxim. (佐藤ら 1985)
- コモチレンゲ *Orostachys iwawange* (Makino) Hara var. *boehmeri* (Makino) H. Ohba (佐藤ら 1985)
- ホザキシモツケ *Spiraea salicifolia* L. (中川 1991)
- カラフトゲンゲ *Hedysarum hedysaroides* (L.) Schinz et Thell. (館脇 1954)
- オオバタチツボスミレ *Viola langsdorfii* Fisch. ssp. *sachalinensis* W. Becker (佐藤ら 1985)
- チシマツガザクラ *Bryanthus gmelinii* D. Don (佐藤ら 1985)
- レブンコザクラ *Primula modesta* Bisset et Moore var. *matsumurae* (Petitm.) Takeda (佐藤ら 1985)
- ネムロシオガマ *Pedicularis schistostegia* Vved. (佐藤ら 1985)
- エゾヒメクワガタ *Veronica setllari* Pall. ex Link var. *longistyla* Kitagawa (佐藤ら 1985)
- タヌキモ *Utricularia vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura (佐藤ら 1985)
- チシマヒョウタンボク *Lonicera chamissoi* Bunge (佐藤ら 1985)
- ネムロブシダマ *Lonicera chrysantha* Turcz. ex Ledeb. var. *crassipes* Nakai (館脇 1954)
- ベニバナヒョウタンボク *Lonicera maximowiczii* (Rupr. ex Maxim.) Rupr. ex Maxim. (佐藤ら 1985)
- イワヨモギ *Artemisia gmelini* Weber ex Stechm. (佐藤ら 1985)
- シコタンヨモギ *Artemisia laciniata* Willd. (佐藤ら 1985)
- エゾノヨモギギク *Tanacetum vulgare* L. (佐藤ら 1985)
- *ホソバナシバナ *Triglochin palustre* L.
- *イトモ *Potamogeton pusillus* L.
- エゾヒメアマナ *Gagea vaginata* Pascher (館脇 1954)
- *タマミクリ *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) Neuman
- ヒメミクリ *Sparganium subglobosum* Morong (館脇 1968)
- ネムロスゲ *Carex gmelini* Hook. et Arn. (佐藤ら 1985)
- タカネハリスゲ *Carex pauciflora* Lightf. (佐藤ら 1985)
- シコタンズゲ *Carex scita* Maxim. var. *scabrinervia* (Franch.) Kükenth. (佐藤ら 1985)
- *エゾハリスゲ *Carex uda* Maxim.
- スイオスゲ *Carex vanheurcii* Müll. Arg. (佐藤ら 1985)
- タカネクロスゲ *Scirpus maximowiczii* C. B. Clarke (佐藤ら 1985)
- ヒメムヨウラン *Neottia asiatica* Ohwi
- タカネトンボ *Platanthera chorisiana* (Chamiss.) Reichb. fil. (佐藤ら 1985)
- トキソウ *Pogonia japonica* Reichb. fil. (北海道斜里高校生物部 1994)

分類群別チェックリスト

- イワヒバ科
エゾノヒモカズラ (VU)
- ハナヤスリ科
ヒメハナワラビ (VU)
- ヒノキ科
リシリビャクシン (EN)
- ヤナギ科
エゾタカネヤナギ (EN)
タライカヤナギ (VU)
- タデ科
ノダイオウ (VU)
- ナデシコ科
シコタンハコベ (VU)
- キンポウゲ科
キタミフクジュソウ (VU)
シレトコトリカブト (VU)

チャボカラムツ (VU)
フタマタイチゲ (VU)
スイレン科
ネムロコウホネ (VU)
ボタン科
ベニバナヤマシャクヤク (EN)
オトギリソウ科
エゾオトギリ (VU)
アブラナ科
トモシリソウ (EN)
ハマタイセイ (CR)
ベンケイソウ科
コモチレンゲ (VU)
バラ科
エゾシモツケ (EN)
ホザキシモツケ (VU)
メアカンキンバイ (CR)
マメ科
エゾモメンヅル (CR)
カラフトゲンゲ (VU)
スミレ科
オオバタチツボスミレ (VU)
セリ科
ヌマゼリ (EN)
レブンサイコ (CR)
イチヤクソウ科
カラフトイチヤクソウ (EN)
ツツジ科
チシマツガザクラ (VU)
サクラソウ科
レブンコザクラ (VU)
リンドウ科
ホソバツルリンドウ (EN)
キョウチクトウ科
バシクルモン (EN)
シソ科
ムシャリンドウ (EN)
ゴマノハグサ科
ネムロシオガマ (VU)
エゾヒメクワガタ (VU)
タヌキモ科
タヌキモ (VU)
スイカズラ科
エゾヒョウタンボク (EN)

チシマヒョウタンボク (VU)
ネムロブシダマ (VU)
ベニバナヒョウタンボク (VU)
オミナエシ科
チシマキンレイカ (EN)
キク科
イワヨモギ (VU)
エゾノヨモギギク (VU)
シコタンタンポポ (EN)
シコタンヨモギ (VU)
フタマタタンポポ (CR)
ホロムイソウ科
ホソバノシバナ (VU)
ヒルムシロ科
イトモ (VU)
ユリ科
エゾヒメアマナ (VU)
イグサ科
セキショウイ (EN)
ミクリ科
タマミクリ (VU)
チシマミクリ (EN)
ヒメミクリ (VU)
カヤツリグサ科
イトヒキスゲ (EN)
エゾハリスゲ (VU)
オハグロスゲ (EN)
シコタンズゲ (VU)
タカネクロスゲ (VU)
タカネハリスゲ (VU)
ヌイオスゲ (VU)
ネムロスゲ (VU)
ヒメウシオスゲ (CR)
ラン科
キンセイラン (EN)
サルメンエビネ (EN)
タカネトンボ (VU)
トキソウ (VU)
ヒメムヨウラン (VU)
ヒロハトンボソウ (EN)
ヤチラン (EN)



写真1. メアカンキンバイ *Potentilla miyabei* (羅白岳 Jul. 13, 2001).



写真5. カラフトイチヤクソウ *Pyrola fauriana* (斜里岳 Aug. 7, 2000).



写真2. レブンサイコ *Bupleurum ajanense* (斜里岳 Jun. 26, 2001).



写真6. サルメンエビネ *Calanthe tricarinata* (幌別川流域 Jun. 13, 2002).



写真3. フタマタタンポポ *Crepis hokkaidoensis* (斜里岳 Aug. 7, 2000).



写真7. ヒロハトンボソウ *Tulotis fuscescens* (朱円 Jul. 8, 2002).



写真4. ベニバナヤマシャクヤク *Paeonia obovata* (大栄海岸林 Aug. 29, 2002).



写真8. エゾノヒモカズラ *Selaginella sibirica* (白伊川流域 Oct. 8, 2001).



写真9. フタマタイチゲ *Anemone dichotoma* (朝日町海岸林 Jul. 30, 2000).



写真13. エゾノヨモギギク *Tanacetum vulgare* (ウトロ崎 Jul. 28, 2002).



写真10. ホザキシモツケ *Spiraea salicifolia* (ガッタンコ湿原 Jul. 14, 2002).



写真14. ホソパノシバナ *Triglochin palustre* (イダシユベツ川流域 Aug. 30, 2000).



写真11. オオバタチツボスミレ *Viola langsdorfii* ssp. *sachalinensis* (峰浜 May 20, 2002).



写真15. ネムロスゲ *Carex gmelini* (以久科北 Jun. 17, 2001).



写真12. ネムロブシダマ *Lonicera chrysantha* var. *crassipes* (本町海岸林 Sep. 27, 2002).



写真16. トキソウ *Pogonia japonica* (ガッタンコ湿原 Jul. 14, 2002).

内田, 斜里町の絶滅危惧植物チェックリスト(71~80P)



レブンコザクラ *Primula modesta* var. *matsumurae* (知床岬 May 23, 2000).



エゾタカネヤナギ *Salix nakamurae* ssp. *yezoalpina* (斜里岳 Jun. 16, 2002). 左：雄花 右：雌花